

平成29年度

丹波篠山黒豆情報

第1号

平成29年7月27日 篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

* 篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(平成29年7月25日篠山市定点調査結果より)

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
平成29年	36.0	10.5
平年(過去10カ年平均)	36.3	10.7
平年比	99%	96%
平成28年(参考)	32.9	11.8

- ・主茎長は平年(過去10ヶ年平均)比99%で平年並み。主茎節数は平年比96%で平年並みです。
- ・黒大豆の播種期にあたる6月中旬が低温で降雨がなかったため、直まき栽培やセル苗での発芽障害が一部で見られました。
- ・初期生育は遅れていましたが、6月下旬以降は気温が高く、適度な降雨があったために生育は平年近くまで回復しています。ただし、ほ場による差が平年に比べて大きい傾向です。

【病虫害】(平成29年7月25日篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率 (%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率 (%)	サヤムシガ 被害株率 (%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
平成29年	0.33	0.00	0.0	25.0	0.00	0.00
平年(過去10カ年平均)	0.53	0.01	1.3	16.0	0.03	0.01
平年比	62%	0%	0%	156%	0%	0%

- ・サヤムシガ、フタスジヒメハムシによる葉の食害程度は平年に比べて多い傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップの誘殺数は、7月上旬から多い傾向です。
- ・茎疫病などの立枯性病害の発生は平年より少ない傾向です。

【今後の対策】

1 中耕培土の実施

- ①中耕培土は、根や根粒の発生を促し、倒伏防止につながる。
- ②中耕培土は7月下旬までに行う。
- ③開花直前の中耕培土は根をかえって傷めることとなるので行わない。

2 倒伏防止

①強風による倒伏を防ぐため、支柱を立てるなどして株を保護する。

3 排水対策

①集中的な大雨の後も停滞水とならないよう、排水溝を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐ等、排水対策の徹底に努める。

4 かん水

①降雨が無く、ほ場が非常に乾燥した状態が続く場合は、土がカラカラになる前に開花期前後(8月上旬～)から莢伸長期、粒肥大期までかん水を行う。

②高温下でかん水すると根が傷むため、日中の暑い時間のかん水は避け、夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしない。

5 病虫害防除

(1) 虫害防除

①茎葉を食害する害虫の発生が多いので、十分には場を観察し、適期に防除を実施する。

②開花期からさやが伸長・肥大する8月中旬～9月中旬の虫害防除を実施する。(カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ハダニ類、ハスモンヨトウ、サヤムシガなど)

(2) 病害防除

①茎疫病など立枯性病害対策のため、ほ場の排水対策を徹底するとともに、薬剤防除を実施する。

②茎疫病対象薬剤は予防効果主体なので、できるだけ発病前または発病初期に散布する。

③立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取る。抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分する。

実とりとエダマメとでは使用可能な農薬の種類や時期が異なるので、栽培こよみで必ず確認し、ラベルに記載されている使用基準に従い防除を行って下さい。

6 追肥の施用

①生育後半の窒素を補い、生育を促すために追肥を行う。

②多く追肥を施用しても、茎葉のみが過繁茂になり青立ちの原因となるので生育量に応じた適量を施用する。

追肥量の目安(慣行型) 8月中旬 NK化成2号 40kg/10a 施用

(JA丹波ささやま「丹波篠山黒豆栽培こよみ」より)